



キンセツ水和剤80

農林水産省登録 第18064号

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数	有機銅を 含む農薬の 総使用回数
みかん	かいよう病 そうか病	1000~1600倍		収穫30日前まで	5回 以内			5回以内
					3回 以内			3回以内
なし	輪紋病 黒星病	1000~1200倍		収穫21日前まで	9回 以内			12回以内(塗 布は3回以 内、散布は9 回以内)
おうとう	せん孔病		200~700ℓ/10a	収穫終了後~ 落葉期まで	3回 以内	散布	-	6回以内(塗 布は3回以 内、散布は3 回以内)
もも	せん孔細菌病 縮葉病	1000倍		収穫後~開花 直前まで 但し、収穫60日 前まで	5回 以内			8回以内(塗 布は3回以 内、散布は5 回以内)
ネクタリン	せん孔細菌病			収穫後~開花 直前まで				5回以内
麦類 (小麦を除く)	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	400倍	100~200ℓ/10a	根雪前	2回 以内			2回以内
小麦	紅色雪腐病	乾燥種子 重量の0.5%	-	は種前	1回	種子粉衣 (乾粉衣)		5回以内(種 子への処理 は1回以内)
	紅色雪腐病 条斑病	乾燥種子 重量の1%						
	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	400倍	100~200ℓ/10a	根雪前	5回 以内			
	眼紋病	400~800倍	60~150ℓ/10a	収穫60日前まで				
レタス	軟腐病	1000~1500倍	100~300ℓ/10a	収穫21日前まで	3回 以内	散布		5回以内
ばれいしょ		1000~1400倍		収穫14日前まで				3回以内
たまねぎ				収穫21日前まで				5回以内
だいこん	春腐病	1000倍		収穫7日前まで	5回 以内			5回以内

キンセツ80/TA06-R08B





⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 石灰硫黄合剤との混用はさける。
- かんきつに使用する場合、軽度の薬害（スターメラノーズ）を生じることもあるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- ももに使用する場合は、以下の事項に注意する。
 - ① せん孔細菌病防除に使用する場合には、薬害を生じるおそれがあるので、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤の所定量を添加する。
 - ② 縮葉病防除に使用する場合には、発芽直前及び開花直前にかけむらのないように樹全体に十分散布する（休眠期散布）。展葉後は薬害のおそれがあるので散布しない。
- おうとう及びネクタリンに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤の所定量を添加する。
- 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は薬害軽減に有効であるが、かんきつ、なし等果実の収穫間際には果実に汚れを生じるので留意する。
- なしの病害防除に使用する場合、高温時に連続散布をすると葉や果実に薬害（ネクロシス、サビ果等）を生じるおそれがあるので注意する。
- ばれいしょ、たまねぎ、だいこん、レタスの軟腐病に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布する。
- レタス及びだいこんに使用する場合、幼苗期や高温時の散布では薬害を生じやすいのでその時期の使用をさける。また、連続散布すると葉が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用はさける。
- 麦類の雪腐病の防除に使用する場合、なるべく根雪近くの晴天の日を選んで散布する。
- 小麦の眼紋病の防除に使用する場合、高温時や葉身が軟弱に生育している状態で散布すると葉身先端部に薬害が生じるがあるので留意する。
- 小麦の種子消毒に使用する場合は、以下の事項に注意する。
 - ① 種子粉衣（乾粉衣）の場合は播種前に適当な容器の中で本剤の所定量が均一に乾燥種子につくように少量ずつついでいねいにまぶす。
 - ② 種子粉衣（湿粉衣）の場合はあらかじめ種子をしめらせて種子乾粉衣と同様に処理する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

⚠ 安全使用上の注意



- 誤飲、誤食などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、薬液調製時及び種子粉衣の際には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。

治療法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。

水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

